

2024年10月16日
日本船主協会 企画部

ドミンゲス IMO 事務局長と都内で会談

～脱炭素化のための国際規制の早期採択に向けた協働の必要性を確認～

当協会の明珍会長他は、来日中のアルセニオ・ドミンゲス国際海事機関（IMO）事務局長と都内で会談しましたので、その概要について以下お知らせします。

1. 日程 2024年10月15日（火）
2. 出席者
IMO アルセニオ・ドミンゲス事務局長
当協会 明珍会長（川崎汽船社長）、橋本副会長（商船三井社長）、
曾我 日本郵船社長、土屋副会長、平尾常務 他

※本会合には国土交通省海事局の中尾 国際企画調整室長および在英国日本国大使館の岩城 一等書記官もご同席。

会談冒頭、明珍会長はドミンゲス事務局長の来日に心からの歓迎の意を表するとともに、昨年見直された、国際海運における GHG 削減目標達成に向けて、IMO で現在議論されている国際規制が早期に採択され、地域規制との併存が回避されるべく、今後も同事務局長の強いリーダーシップに期待する旨発言しました。

これに対し、ドミンゲス事務局長からは、IMO における GHG 削減に関する議論（経済的手法）については他の国際機関も注目していると述べた上で、各国のポジションに依然として差異が見られるところ、プライシング・メカニズム全体の枠組みへの合意が肝要であることや、同メカニズムが船舶の脱炭素化に向けた移行を主眼に置いたものとすべき旨の見解を表明しました。

航行安全の確保については、自動車専用船 GALAXY LEADER が紅海でイエメン武装組織ホーシー派に「拿捕」されてから来月で1年を迎える中、本船乗組員の早期解放に向けて引き続き尽力していくこと、そして、船員の遺棄対策や長期拘留の問題にも言及し、IMO として積極的に関与していく意向を表明しました。

会談最後には、当協会が今後も日本政府と協働し、IMO における審議への積極的な貢献の必要性を確認しました。



写真：

左から平尾常務、曾我 日本郵船社長、明珍会長（川崎汽船社長）、
ドミンゲス IMO 事務局長、橋本副会長（商船三井社長）、土屋副会長

以上